

タイトル「**2024年度大学院スポーツ科学研究科(公開用)**」、フォルダ「**大学院スポーツ科学研究科**」
シラバスの詳細は以下となります。

[戻る](#)

科目ナンバー			
科目名	コーチング学特論		
担当教員	北村 勝朗		
対象学年	1年,2年	開講学期	後期
曜日・時限	火 3		
講義室	1407	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類			
科目中分類			
科目小分類			
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード：学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP1. 多文化、異文化を理解し、グローバル化する知識基盤社会の一員、スポーツに関わる一員として自らの意見を表現することができる（20%）。 DP2. 知識基盤社会の構成員として自らの専門における研究能力のみならず、確かな教養と高い倫理感を持ち、論理的な思考力を有し、スポーツにおける競技スポーツの位置づけ及び意味に対して自らの意見を説明できる（20%）。 DP3. スポーツに携わる中で、自らが発見した問題や直面した問題に対し、専門的な知識・技能を用いて主体的にかつ協働して体系的な解決策を見だし、それを遂行することができる（60%）。		
教員の実務経験	担当教員はコーチング研究を専門とし、日本コーチング学会最優秀発表賞（2020年）、日本スポーツ心理学会最優秀論文賞（2008年）等を受賞しています。また、専門社会調査士の資格を有し、日本サッカー協会公認指導者養成講習（スポーツ心理学）スタッフとして現場のコーチの指導実践を継続して行っています。その他、テレビ局の仙台放送と共同でスマートフォンのアプリ（仙台放送ニュースアプリ）の連載を担当し、「5日間で名コーチに変身するレシビ1～5」の作成に携わっています。授業ではこうしたコーチングの理論と実践を基に構築された最新の知見を最大限活用し、現場で活用できるコーチングの理論と実践的な講義を行います。（第1回、6回、12回、13回、14回）		
成績ターゲット区分			
科目概要・キーワード	本科目では、スポーツの指導に関する理論的かつ実践的な課題について体系的に学習します。具体的には、コーチング実践の背景に存在する信念体系、関係性、教育的関与、熟達、社会化、心理体系といった多層的な視点からコーチング実践を取り上げ、指導者および学習者双方の側面からコーチングにかかわる現象を本質的に理解します。更に、コーチングの諸現象を科学的に考究し、問題解決について論理的かつ実証的に記述・表現できる高度な力を身につけます。授業形態は講義形式により行います。なお、授業を補完・代替するため、オンライン授業（オンデマンド型・ライブ配信型）を取り入れます。 ■（キーワード）コーチングメンタルモデル、才能育成、チームビルディング		
授業の趣旨	■副題 スポーツ指導現場での指導者の在り方と指導実践の方法を明らかにする ■授業の目的 競技スポーツの指導における様々な活動や諸問題をコーチング学の視点から捉え、選手やチームのパフォーマンスを高め、目標を達成するために理論的かつ実践的な知識、技術、判断力、マネジメント力、実践力を身につけることを目的としています。 ■授業のポイント コーチング学特論では、指導者として選手やチームに指導的かわりを実践する上で求められる様々な問題解決能力を実践的に学ぶために、基礎基本となるコーチングの基礎理論を学び、その上で、個々の指導場面に応用可能な実践的知識・技能を学修します。そうした学修を通じて、競技スポーツにおけるコミュニケーションスキル、観察力、組織マネジメント力といった高度な技能を身につけます。		
総合到達目標	■コーチングの基礎理論を学ぶために、国内外のコーチング学およびその周辺領域の専門知識を体系的・論理的に理解します。 ■指導行動を多角的に理解し、高い指導倫理を身に付けるために、教育理論および熟達理論の視点からコーチング学に関し体系的に理解します。 ・コーチングスキル、チームビルディング、相互受容の関係構築、行動観察、リーダーシップ、熟達について説明することができる。（第2回～第6回、第8回～第14回） ・スポーツ指導に関する問題についてコーチング学的視点から問題解決法を記述することができる。（第1回～第6回、第8回～第14回） ・コーチング学的理論に基づき、自身の指導行動を観察し、分析し、省察し、改善提案を提示することができる。（第1回～第6回、第8回～第14回） ・特定の指導場면을多角的に捉え、複合的に分析し、最善の問題解決方法を複数、系統立てて提案することができる。（第7回・第15回）		
成績評価方法	■レポート2回（40%）適応DP-2 （評価の観点）コーチング学特論の学修内容を踏まえ競技スポーツのコーチングについてのレポートを作成し授業についての評価を行います。（フィードバック方法）授業時間中に「講評」を行います。 ■小テスト2回（40%）適応DP-3 （評価の観点）定期的な授業の振り返りとして理解度を確認するための客観的問題による小テストを行います。（フィードバックの方法）答案を確認し、自主学習につながるよう指導を行います。 ■リアクションシート13回（20%）適応DP-1 （評価の観点）授業内容を踏まえ自らの意見を表現できるのかを評価します。（フィードバック方法）授業時間中に「解説」を行います。		
履修条件	基本科目のスポーツ科学総論2、スポーツ科学研究法の単位修得後の履修又は並行して履修していることが望ましい。		
履修上の注意点	初回ガイダンスにて、授業の進め方（オンライン授業時の受講方法）や、欠席（欠席届）時の代替課題、受講ポリシー、成績評価の詳細などについて説明します。授業を円滑に進めるために、それらをよく理解した上で履修してください。 不明な点は担当教員に連絡の上、理解してから履修してください。		
授業内容	回	内容	
	1	①授業テーマ ガイダンス ②授業概要 授業の進め方や評価方法についての説明及び、担当教員の実務経験を踏まえコーチング学の主要なテーマと課題について解説をし、コーチング学とは何を学ぶのかについて、コーチングスキル、チームビルディング、相互受容の関係構築、行動観察、リーダーシップ、熟達のテーマにかかわる学修内容を概観し、受講者がそれらについて説明できるようにします。受講者が授業の準備を具体的にこなせるようにします（DP1）。 ③予習（120分） シラバスの内容をよく読み、授業内で扱う領域をweb、図書館等を利用して調べる。 ④復習（120分） 講義資料等を確認して、自分の学修計画と他の履修科目との関係について検討する。	
	2	①授業テーマ コーチングの基本理念 ②授業概要 コーチングの語源、歴史、関連概念を体系的に整理しながら学修し（DP3）、スポーツ科学の知見に基づいたコーチングの説明ができるようにします（DP1）。 ③予習（120分） コーチングの概念を、ティーチング、メンタリング、カウンセリング、コンサルティング、と対比した上で概略をまとめ、	

	選手のやる気を高め、自律的な行動を促し、目標達成に向けた方略を立て、人的物的環境構築を行い、関係性を構築する方略について説明できるように準備する。不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） 指導現場で生起する諸問題について講義資料、ノート等を確認し、内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
3	①授業テーマ 選手の熟達とコーチング ②授業概要 熟達理論に基づく選手の能力育成と指導的かわりについて学修し（DP3）、スポーツ科学の知見に基づいた説明ができるようにします（DP1）。 ③予習（120分） スポーツ選手の熟達過程の基礎理論を理解し熟達モデルの概要についてまとめ、不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） 熟達および選手の能力育成について講義資料、ノート等を確認し、内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
4	①授業テーマ 指導者の熟達とコーチング ②授業概要 コーチング実践を通じた指導者としての成長の概要を学修する（DP3）とともに、指導熟達化理論の理解と実践についてスポーツ科学の知見に基づいた説明ができるようにします（DP1）。 ③予習（120分） コーチング熟達化に関するテーマ（コーチングメンタルモデル、メタ認知、省察）の概略をまとめ、選手と指導者の違いを明らかにしてくる。不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） コーチング熟達化の概略をまとめ、（コーチングメンタルモデル、メタ認知、省察）について講義資料、ノート等を確認し、内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
5	①授業テーマ 動機づけとコーチング ②授業概要 選手のやる気を高め自律的な行動を促すコーチングの理論と実践的行動（自律性、関係性、有能性の欲求充足と支援的かわり）について概要を学修し（DP3）、競技スポーツの現場で選手のやる気を高める実践とその理論的根拠について説明できるようにします（DP1）。 ③予習（120分） 選手の動機づけ理論と支援的行動の概略をまとめ、指導者が選手のやる気を高め自律的な行動を促すコーチングを実践するにはどのようなポイントがあるか明らかにしてくる。不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） 動機づけ理論とコーチングについて講義資料、ノート等を確認し、内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
6	①授業テーマ チームビルディングとコーチング ②授業概要 課題凝集性と社会凝集性に基づく集団のマネジメント方略を学修し（DP3）、競技スポーツにおいてチームワークを高める様々な実践とその実践の有効性について説明できるようにします（DP1）。 ③予習（120分） チームをまとめる理論と指導的方略についてまとめ、不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） 集団のマネジメント方略について凝集性の理論に基づき、講義資料、ノート等から確認し、内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
7	①授業テーマ 中間まとめ ②授業概要 これまでの講義（熟達、動機づけ、チームビルディング）を通じたまとめと小テストを行い（DP2）、競技スポーツのコーチングにおける様々な実践方法とその理論的根拠についての理解の到達度を確認し振り返りを行います（DP3）。 ③予習（120分） コーチングにおける熟達、動機づけ、チームビルディングに関する資料としてまとめ、小テストへの準備をする。 ④復習（120分） 小テストの問題の振り返りと講評を踏まえ、修正し自分の言葉で再度説明できるよう概略をまとめる。
8	①授業テーマ 導入期のコーチング ②授業概要 幼少期や初学者を対象としたコーチングの理論と実践について学修し（DP3）、スポーツ科学が多様な競技スポーツの現場にどのように活かされているかを説明できるようにします（DP1）。 ③予習（120分） 熟達過程の導入期のコーチングについてまとめ、不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） 導入期のコーチングについて講義資料、ノート等を確認し、内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
9	①授業テーマ 専門期のコーチング ②授業概要 専門的技能習得を学ぶ専門期におけるコーチングの理論と実践について学修し（DP3）、スポーツ科学が競技スポーツの指導現場においてどのように活かされ、多様な問題解決に貢献しているのかを説明できるようにします（DP1）。 ③予習（120分） 熟達化理論に基づく専門期のコーチングについてまとめ、不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） 質の高い練習の蓄積と熟達について講義資料、ノート等を確認し、内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
10	①授業テーマ 発展期のコーチング ②授業概要 より高度な熟達段階におけるコーチングの理論と実践を学修し（DP3）、スポーツ科学がトップレベルの競技スポーツのコーチング実践にどのように活かされ、どのように新たな理論構築に貢献しているのかを説明できるようにします（DP1）。 ③予習（120分） トップレベルのコーチングについてまとめ、不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） 熟達段階の高い選手のコーチングについて自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
11	①授業テーマ 関係性とコーチング ②授業概要 選手と指導者の良好な関係性について学修し（DP3）、スポーツ科学が競技スポーツの指導現場においてどのように活かされ、どのように科学的な根拠に基づいた多様な問題解決が可能かを説明できるようにします（DP1）。 ③予習（120分） 社会心理学的視点から選手指導者関係のコーチングについて講義資料や教科書を読み、内容の概略をまとめ、不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） コーチングにおける良好な関係性とは何か、社会心理学的観点から自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
12	①授業テーマ コーチングにおける行動観察 ②授業概要 指導場面における選手およびチームの観察の理論と方法論の概要を学修し（DP3）、受講者が観察について説明できるようにします（DP1）。 ③予習（120分） 組織的行動観察法に基づく選手行動の分析方法についてまとめ、不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） コーチングにおける行動観察の概要について授業ノートを確認し、内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
13	①授業テーマ コーチングにおけるインタビュー法 ②授業概要 選手とのかかわり行動の方略としてのインタビューの理論と実践の概要を学修し（DP3）、受講者が説明できるようにします（DP1）。 ③予習（120分） インテンショナル・インタビューに基づくかわり行動と技法をまとめ、不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） 社会構築主義に基づくインタビュー理論の基本的事項と実践方法について講義資料、ノート等を確認し、内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
14	①授業テーマ コーチングにおける評価とプランニング ②授業概要 選手とチームの目標達成に向けたコーチングのプランニングと評価法について学修し（DP3）、受講者がそれについて説明できるようにします（DP1）。 ③予習（120分） コーチングの知識と技能をどのように指導現場での実践に応用し効果を評価するかまとめ、不明な点は教科書や図書館等を利用し調べ準備する。 ④復習（120分） コーチング実践の評価法とプランニングについて講義資料、ノート等を確認し、内容について自分の言葉で説明できるよう概略をまとめる。
15	①授業テーマ まとめ ②授業概要 これまでの講義（導入期のコーチング、専門期のコーチング、発展期のコーチング、関係性、観察法、インタビュー法、評価法）を通じて、まとめと小テストを行い（DP2）、到達度を確認し振り返りを行います（DP3）。 ③予習（120分） 導入期、専門期、発展期のコーチング、関係性とコーチング、観察法、インタビュー法、評価法に関する資料としてまとめ、小テストへの準備をする。 ④復習（120分） 小テストの問題の振り返りと講評を踏まえて修正し、自分の言葉で再度説明できるよう概略をまとめる。
関連科目	スポーツ科学総論2、スポーツ科学研究法、スポーツ心理学特論

教科書	
参考書・参考URL	コーチング学への招待，大修館書店，日本コーチング学会編著、2916円、（2017年）
連絡先・オフィスアワー	kitamura.katsurou@nihon-u.ac.jp 火曜日：15:00～17:00
研究比率	

